

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価結果

達成度（評価）  
**A**：十分達成できている  
**B**：おおむね達成できている  
**C**：やや不十分である  
**D**：不十分である

学校名	唐津市立佐志中学校
1 前年度 評価結果の概要	・「よりよい佐志中学校づくりのためのアンケート」の結果から、生徒や保護者からは概ね学校の教育活動に対して評価していただいているものの、「佐志中学校に通って（通わせて）よかった」の質問に対して生徒は83.1%、保護者は80.8%であったので、今年度は90%越えを目指す。 ・職員の間で共通理解のもと今年度も継続して校内研究を主軸において、授業改善を推進し学力向上を図る。 ・一層の生徒の意識向上を図るとともに、家庭との連携を強化することで、家庭学習の充実、スマホ利用時間の縮減等、望ましい生活習慣の形成を目指す。
2 学校教育目標	確かな学力を身につけ、健康で心豊かで、生きる力を持つ生徒の育成
3 本年度の重点目標	(1) 学力向上のために授業と家庭学習の充実を図る。 (2) 生徒理解と仲間づくりを通して人権・同和教育を推進する。 (3) SDG'sを意識した教育活動の展開を図る。

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価
---------------	------	--------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
●学力の向上	●全職員による共通理解と 共通実践	●学力向上対策評価シート に示したマイプランの成果指 標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有すると ともに、校内研修等により取組の促進を 図る。	B	・「学力向上」については、研修ごとに共通理解でき、教師自身の授業の振り返り及び指導法改 善につながったが、うまく「マイプラン」を活用できなかった。	A	・学力向上に向けて校内研究を通して指導法改善について共通理解ができ、アクションプランを 意識して、PW・GW・CWに取り組みることができた。しかし、授業改善に関する生徒アンケートにお いて達成率は66%にとどまり、さらなる指導法の工夫・改善を推進する必要がある。
	○意欲的に学習に臨む生徒 の育成を図る	○授業に一生懸命に取り組 んでいる生徒を85%以上に する	・「授業づくりのステップ1・2・3 Vol. 2」を踏まえ、全教科半分以上の授業 で「話し合う活動」を設定する。 ・「振り返り」を確実に設定する。	B	・アンケートにおいて授業に一生懸命に取り組んでいる生徒は80%であった。 ・授業における「話し合う活動」の設定はコロナの影響でうまくできていない。 ・「振り返り」の活動は多くの授業で行われている。	B	・コロナ禍で制限はあったものの具体的な取り組みは実践できた。しかし、アンケートにおいて授業 に一生懸命に取り組んでいる生徒は70%と達成率が低かった。今後は今回の結果を踏まえ、全 職員で学力向上に力を入れていく必要がある。
	○家庭学習の習慣化	○毎日家庭学習に取り組む 生徒を80%以上にする	・教材研究として授業と関連した課題 の作成に取り組む。	B	・毎日の課題の内容は、授業の予習及び復習となるプリントや問題に取り組みさせ、80%以上の 生徒が提出できているが、自主的な学習については学年により、取り組みせ方に違いがある。ま た、学習内容については検討の余地がある。	B	・アンケートにおいて家庭学習は生徒の76%が肯定的な回答をしているが、学習時間は短い傾 向にある。自主学習については生徒会活動でも推進を図っているところであるが、生徒の意識に 差が見られる。スマホ等の影響もあると思われ、今後は家庭と連携を図りながら家庭学習の習 慣化の推進を図っていく。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重 する心、他者への思いやりや 社会性、倫理観や正義感、感動 する心など、豊かな心を身に付け る教育活動	○道徳性についてのアンケ ートで肯定的な回答をした生徒 と保護者の割合をそれぞれ8 0%以上にする。	・平和教育や安全教育に関する授業 や掲示に取り組む。	B	・道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした生徒77%、保護者82%であった。 ・生徒が道徳的な考えを深められるような教材研究を行う。 ・保護者や地域の方に開かれた、ふれあい道徳を実施した。	A	・「道徳の授業などを通して豊かな心が育っている」に対し肯定的な回答をした生徒は78%、保 護者は81%であった。計画的に道徳の授業を行い、議論を通して道徳的価値観を高められるよ うな授業改善をさらに進める必要がある。 ・保護者や地域の方の協力も得ながら、道徳の授業に取り組んでいきたい。
	●いじめの早期発見、早期 対応体制の充実	○いじめアンケートで、学校 の取組に肯定的な回答をした 生徒・保護者の割合をそれぞ れ80%以上にする。	・毎月生活アンケートをとる。 ・生徒指導部会（週1回）と生徒理解協 議会（月1回）を通して、学年を越えた 情報交換を行う。	B	・毎月心のアンケートを実施し、いじめの早期発見・対応に努めた。中間評価アンケートで学校に 肯定的な解答をした割合は76%であった。 ・生徒指導部会と生徒理解競技会はほぼ定期的に行うことができ各学年からの情報交換を行う ことができた。	A	・月末に「心のアンケート」を実施し、いじめの早期発見に効果的であった。また、早期対応に努 め組織的に対応できたと考えられる。しかし、アンケートにおいては学校の取り組みに肯定的な回答 をした生徒、保護者はそれぞれ75%、79%であり、指標に若干及ばなかった。
	◎キャリア教育の推進を図 る。	○将来の夢や希望する職業 を持つ生徒を70%以上にす る。	・職業や高校・大学について機会を捉 えて紹介する。	B	・学年によりややばらつきはあるが、全体では72%の生徒が将来の夢や希望する職業もって いると回答している。 ・3年生の進路に関わる取組は確実に実施できているが、2年生の職場体験が延期となってい る。	B	・将来の夢や希望する職業もっている生徒の割合は68%であった。コロナ禍の影響 も考えられるが、先が見えづらい今だからこそ、将来の夢を持つことやその実現に向けて努 力することの大切さを生徒たちに伝える取り組みの重要性が増してきたと考える。その為のカリ キュラムの再構築に取り組むたい。
●健康・体づくり	◎「望ましい生活習慣の形 成」	○睡眠時間7時間以上、ス マホ等の使用時間2時間以 内の生徒を90%以上にす る。	・規則正しい生活やスマホ依存につ いて通信等で啓発を行う。 ・スマホの使い方について講師を招 いて講演会を行う。	B	・睡眠時間とスマホ使用時間についての達成率は58%だった。今後、通信や集会で呼びかけ望 ましい生活習慣の形成を目指す。 ・スマホの使い方については6月に講師を招き講演を行った。今後も注意喚起を徹底する。	B	・生徒アンケートによる達成率は61%であった。スマホの利用時間の長さが家庭学習の阻害要 因の一つとなっていることが考えられることを踏まえ、スマホの利用の仕方について、学校での 指導とともに家庭との連携を図りながら推進する必要がある。
	○朝食の喫食率向上を図 る。	○朝食の喫食率を90%以 上にする。	・朝食の効果について啓発を行う。	B	・朝食の喫食率は86%であった。 ・「朝食の効果についての啓発」を保健だより等を用いて啓発していくとともに、朝食を食べない 生徒の個別相談を実施する。	A	生活習慣自己診断シートによると、朝食の喫食率は97.7%であり、多くの生徒が毎日朝食を摂 取できていた。これからは朝食の重要性を生徒全体に啓発していくと共に、全く摂取していない 生徒が数名みられたため個別相談を充実させる必要がある。
●業務改善・教職 員の働き方改革の 推進	●業務効率化の推進と時間 外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる 時間外在学等時間の上限を 遵守する。	・部活動休養日の設定を徹底する。 ・部活動休養日を定時退勤日とする。	B	具体的な取り組みについてはほぼ達成できているが、働き方改革の推進への肯定的な評価は 60%であった。今後は業務改善や行事の精選及び年休の取得推進を一層進めることで、休養 日以外の早い時間の退勤を実現し職員の負担感の軽減を図る。	B	具体的な取り組みについてはほぼ達成できているが、働き方改革の推進への肯定的な評価は 60%であった。改善する余地や可能性のある業務を広く柔軟に意見を求め、それを検討し実践 することで、一層の改善を推進する。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果
	重点取組内容	成果指標 (数値目標)					
○ESDの推進	○全教科・領域において、 SDG'sを意識した教育を展開 する。	○3つ以上のSDG'sを意識し て生活を送ることができてい る生徒の割合を90%以上 にする。	・全教科・領域において、また教科横 断的にSDG'sを扱う単元開発を積極的 に行う。	B	中間評価における達成率は57%であった。生徒総会で会長からの紹介があり、スタートラインに つくことができた。現在は、各教科における個別の取り扱いが中心となっているため、今後は SDG'sの認知度を高め、組織的な取組を推進していく。	B	文化発表会で取り組むなど少しづつSDGsへの認識が広まりつつあるが、目標とする数値までは 届かなかった。今後はこれまで実践した取り組みをさらに広げ深めていくことで、SDGsの理念を 理解し実践しようとする生徒の育成に努めたい。

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・「佐志中学校に入学してよかった」に肯定的な回答は生徒81%、保護者91.7%であった。来年度は生徒・保護者ともに90%を越えることを目指す。 ・研究指定3年目となり職員一丸となって学力向上に向け授業改善に取り組んだものの、各教科において十分な基礎・基本の定着までは至らなかった。現状をしっかりと分析し、学力向上に向けさらに研究を推進していく。 ・スマホの利用時間の長さは全国調査の結果からもうかがえ、家庭学習の充実にも影響を与えていると思われる。スマホ利用に対する生徒の意識改善と家庭との連携強化を図ることで、スマホ利用時間の縮減と望ましい生活習慣の形成を目指す。 ・教師による回答では、業務改善・働き方改革に対する肯定的な回答が最も低かった。改善する余地や可能性のある業務を洗い出し、一層の改善を推進する。
--------------------	--